

③^{てしかが}弟子屈地区かわまちづくり事業 ～まちづくりと一体となった川づくり～

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所
北海道弟子屈町

キーワード 水辺と地域の魅力向上、まちづくりと一体となった川づくり、道の駅満足度ランキング

全建賞審査委員会の評価ポイント

まちづくりと一体となった河川空間整備事業。温泉街の近傍における河川整備と一体となった公園（都市）、遊歩道等（道路）、観光交流館の整備により、水辺と地域の魅力が向上され、弟子屈町の観光客数や道の駅利用者が実際に増加した点や、地域全体を対象にデザインされ、多数のステークスホルダーの参加を促し、計画を策定し実行している点が評価された。

1. はじめに

釧路川は、その源を藻琴山等、屈斜路カルデラの外輪山に発し、屈斜路湖から流れ出て、弟子屈町、標茶町を流れ、釧路湿原に入り、岩保木地点で新釧路川となって、釧路市街地を貫流して太平洋に注ぐ一級河川である。平成24年2月に「弟子屈地区かわまちづくり」計画が登録され、まちづくりと一体となった川づくりを行った。

2. 事業の概要

「かわまちづくり」とは、地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組で連携することで、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組である。弟子屈町は観光を基軸としたまちづくりが活発に推進されており、弟子屈市街中心を貫流する釧路川は、まちづくりには欠かせない重要な資源である。そこで、弟子屈町で整備した既存の都市公園や商店街、観光資源をネットワーク化しアクセス性を高めるため、親水護岸の整備（護岸の緩傾斜化）や管理用道路を整備した。



親水護岸や道の駅リニューアルで川に接しやすく！

3. 事業の成果

取組としては、町民、観光客、ドライバーを水辺に導くため、温泉郷と釧路川を核に豊かな河川環境を生かした地域づくりを行い、観光交流拠点の再生とともに町民と来訪者との交流空間が創出され、親しみの持てる河川空間とするべく、町民（学生）に公園施設の名称募集や夏祭り会場に利用するなど地域が一体となる活動、関心を高める工夫を行っている。また、釧路川に近接する道の駅「摩周温泉」は、平成23年7月にリニューアルされ、入館数が急増し、平成27年には旅行雑誌の読者アンケート「道の駅満足度ランキング」で総合1位に選出されている。これらの取組が、観光客の入込み数の増加と地域活性化につながっていると考えられる。

4. おわりに

近接する既存の公園や市街地と連続性を持つ河川沿い管理用道路が整備されたことで、観光客が釧路川沿いを散策しながら、町内の観光交流拠点巡りや市街地の移動を手軽に楽しめる水辺空間となった。

また、令和4年7月には完成した「釧路川ふれあい広場」でオープニングセレモニーが開催され、開催後は夏祭りが行われるなど、積極的に水辺空間が活用されている。今後も各種イベントやお祭り、新たな観光メニューのほか、環境教育などの場としてより一層活用されることが期待される。



「釧路川ふれあい広場」 オープニングセレモニーの様子

賛助会員 (株)建設技術研究所、パシフィックコンサルタンツ(株)、日本工営(株)